

英国、陸上風力発電向けの補助金廃止へ

この度、英国のエネルギー・気候変動省（DECC）は、2016年4月以降の新規陸上風力発電への補助金の廃止を発表した。これまでに陸上風力発電への公的補助金の総額は£800M（約1500億円）となっており、この結果、陸上風力発電の総発電量に占める割合は5%を占める様になった。現在審査中や進行中の5.2GW相当の陸上風力発電はそのまま継続される見通しである。今後は民間業者による陸上風力発電の申請に対しての可否は当該自治体に委ねられることになる。

DECCのアンバー・ラット新大臣は「陸上風力発電は英国が進めている低炭素化政策の重要な柱の一つであり、低炭素化政策に十分貢献できたと考えている。今後は陸上風力発電は公的補助金に依存するのではなく民間業者による自立を促したい。DECCは、引き続き、クリーンで低価格のエネルギーを産業界や国民に供給するために、長期エネルギー計画に基づき施策を進めていきたい。」と述べている。図1.は風力発電の現状を表している。

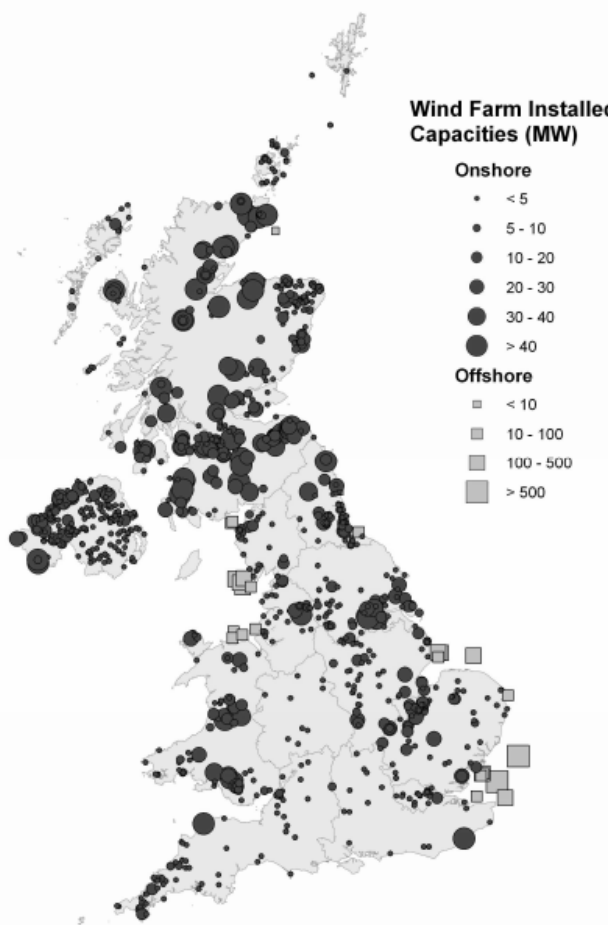


図1. 英国の陸上風力発電と洋上風力発電の現状（2013年）

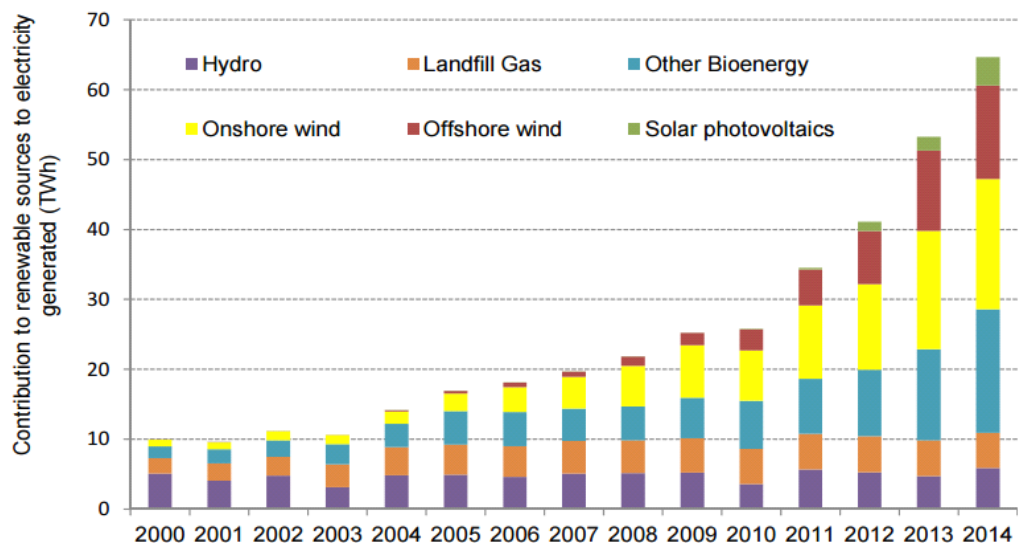


図2. 英国の再生可能エネルギー発電量の推移

図2.は2000年からの英国の再生可能エネルギー発電量の推移を表している。黄色の陸上風力発電と褐色の洋上風力発電が著しく伸びている。2005年～2014年までの10年間の主要な指標は以下の通りとなる。

- 2014年の再生可能エネルギー発電量は2005年の3.9倍となっている。
- 2014年の陸上+洋上風力発電量は再生可能エネルギー発電の40%を占める。
- 2014年の陸上風力発電量は2005年と比べて7.6倍に伸張している。
- 2014年の洋上風力発電量は2005年と比べて44倍に急伸長している。
- 2014年のバイオマス発電は2005年と比べて5倍に伸張している。

また、DECCのデータでは、2014年末の再生可能エネルギー発電量の総発電量に占める割合は21.8%、2015年四半期の速報値では22.3%となっており、英国が掲げていた2020年で再生可能エネルギー発電量比率20%の目標をクリアすることが確実となっている。この事は、これまでに英国が長期エネルギー計画に基づき、再生可能エネルギーを増やすと言う命題に粛々と取組み進捗させて来た、その成果が現れている状況が見て取れる。(了)